

第1次派遣(会津) 4月24日(日)～5月2日(月)

班長：中須 雅治さん（全労金）

深見 正弘さん（全労金）

桑原 渉さん（中 央）

《ブログ開設にあたり》

全国の仲間の皆さん。全労金は、4月24日（日）出発組（中須副委員長・深見書記次長・桑原中央労組委員長）をスタートにして、第1期の連合・救援ボランティア全日程への参加を始めます。

全単組（※東北労組を除く）から救援ボランティアに参加される皆さんは、全労金を代表して参加することになります。どうか被災された皆さんの気持ちを第一に考え、助け合い・支え合いの精神で、想像力を発揮して元気に役割を果たしていただくことをお願いします。

そして、ボランティアに参加されない皆さんも、このブログ（活動記録・日誌）を通じて、ボランティアに参加している皆さんへのメッセージを書き込むなど、ボランティアに参加している皆さんと同じ気持ちを持っていただき、職場や家庭で自分が出来ることを考え、自らの意志で日本社会・東北地方の復興・再生に向けた取り組みを実践していただくことを要請します。

現在の状況を考えますと、被災地の復興・再生にはもう少し時間が掛かりそうです。

連合・救援ボランティアも、このあと第2・第3と続くと思います。全国の仲間の皆さん、今後の救援ボランティアへの参加、並びに、復興・再生への継続した取り組みなど、社会的労働運動への積極的な参加・取り組みをよろしくお願いします。

全労金中央執行委員長 石田 輝正

《いよいよ出発》 4月24日



本日より全労金の第一次派遣が始まります。この写真は事前ガイダンスの様子です。今日から随時書き込みしていきますので、よろしくお願いします。

《全労金第一次派遣、出発！》 4月24日

本日、連合救援ボランティア会津BC（ベースキャンプ）に、中須副委員長、深見書記次長、中央労組桑原委員長の3名が、元気よく出発しました！明日からは深見書記次長が、現地レポートを書き込みます。



《初日の報告》 4月24日



石田委員長・河野書記長・加来特別中執のお見送りを受けて、総評会館を12時に出発したあと、派遣団を乗せたバスは東北自動車道を順調に北上し、16時頃に会津ベースキャンプ（沼尻勤労者保養センターぼなり）に到着しました。

到着後は、派遣団「迎え入れ式」にて連合福島・影山会長のご挨拶を受け、明日からの主な行動のオリエンテーションがありました。（※会場の様子は写真参照。挨拶をされている方が景山会長）

会津ベースキャンプには、電機連合・運輸労連・全電線、そして全労金の4産別より、58名が結集しています。（※相馬・いわきのベースキャンプを含めると、福島全体では130名ものボランティア派遣の総数となっているとの説明でした）

明日からは、いわき市勿来（なこそ）地区の瓦礫・ドロ撤去などに43名、会津若松にある体育館の避難所での物資仕分け・整理などに15名がボランティア活動に従事します。全労金の3名は、会津若松に向かうことになりました。ここには、福島原発の近くの町民を中心に500名の方々が避難をされているとのことで、連合のボランティアに対する期待は大きいとのことです。

避難所では被災者の身になって、被災者の目線に立った対応が求められています。ニーズ、要望にしっかりと応えられるよう頑張ります。実際の具体的な活動内容やさまざまな状況については、明日、また報告します。

明日からの本番に備え、今日は早めに休むことにします。（※消灯は22時半です）

《2日目》 4月25日



6時半より朝食をとり、「ぼなりのベースキャンプ」(※写真参照)を8時に出発し、9時に会津若松市地域の支援物資センターとなっている「旧若松女子高東体育館」に到着しました。こちらには、福島原発の避難区域になってしまった「大熊町」が町役場ごと移転していました。

会場では、連合福島会津若松地協の遠藤事務局長からご挨拶と諸注意ならびに支援物資センターの案内を受けた後、体育館に入りました。

中の状況は、衣料品(男女別・サイズ別)、食料品(※米・水・牛乳など)、トイレットペーパー・オムツ・洗面用具・食器等がそれぞれ、被災者に分かりやすく整理されていました。センターの開放時間は、10時～15時半となっていて、受付を済ませた被災者の方々が思い思いの品々を求めています。(※体育館の中の配置図参照)



ボランティアは全体で60～70名が対応にあたりました。私たち連合メンバー15名の他、社会福祉協議会を中心に、地元のボランティアの皆さん、学生で構成されていました。私たちの全労金・連合のメンバーの仕事は、物資の仕分けや不足している品物の補充、時より搬入される支援物資の納入を始め、受付・被災者の整理・段ボール箱の片づけ・荷物の一時預かりなど多岐に渡りました。被災者が希望する物資を受け取れるよう、ボランティ

アの皆さんや私たちも、懸命に対応をした一日でした。(※写真は衣服を仕分けしている
深見書記次長)

本日の来場は、654世帯となり、1,000名前後の被災者が来場されたと思われます。今日の会津は、朝はとても天気が良かったのですが、昼過ぎからは雨が振り、夕方は雪に変わるほど、気温も下がって肌寒い天候でした。(桑原)

《ボランティアの活動内容》 4月26日



《ふりかけ小分けしている桑原委員長》

今回は、会津若松支援物資センターで、全労金の3名を含む連合のボランティアスタッフのメンバーがどのような活動を行っているかを紹介します。センターでは、主に「駐車場の整理」「入場の整理」「受付」「退出窓口」「荷物仮置き場の管理」「段ボール箱等の整理・廃棄」「食料・衣料等のブース管理」「その他」の任務に分かれており、全労金の3人は「その他」（※物資区分け・整理・陳列準備）を任務としています。

物資支援センターにおける一連の基本的な作業の流れと状況は以下の通りです。

- 「物資がセンターに届く」→「他のボランティアメンバーとバケツリレーで物資仮置き場に搬入」→「各ブースに在庫がないものはブースへ」「在庫があるものは体育館の隅などに仮置き」。
- 「グラスや陶器が届く」→「箱だし」→「アルコールとタオルできれいに磨く」。
- 「衣類が届く」→「性別・サイズごとに仕分け」（※衣類は、大人の男性・女性の他、子ども服は、肌着・半袖・長袖・ズボン・つなぎ服・靴下などに細かく分類し、被災者の方がすぐに見分けられるよう区分けしています）。
- 被災者の方々の必要頻度が高い食料品（※お米・水）やトイレットペーパー等の日用品は、品薄のため、制限・小分けして渡すことになっています。

全労金の3人それぞれの特徴的な行動は・・・桑原委員長（中央労組）は、お米（2.5

kg) とふりかけ (5 袋) の小分け作業に邁進されていました。中須副委員長と深見は、ガラス・陶器類を一生懸命磨いたり、女性や子ども衣料のサイズの見極めに悩みながら、四苦八苦して区分けしていました。

会津の支援物資センターでは、女性の生理用品・下着、男性の下着、赤ちゃんのおむつ、BOXティッシュ、バスタオル等が品薄状態で、物資を並べると瞬く間になくなってしまいます。逆に、大人用のおむつ・タオル等は在庫が豊富にあります。また、例えば、歯ブラシはホテル等に設置してあるものは豊富にありますが、スーパー等で販売しているものは品薄ですし、衣類等も新品はすぐになくなりますが古着はなくなるならないという状況です。本日は、昼過ぎまで入場制限するほど多くの方が来場され、最終的には725世帯が入場されました。

3人とも、物資搬入と大量の在庫整理で握力と体力が若干消耗しています。でも、明日もがんばるぞ～！！（深見）

《 震災より49日 》 4月27日



《バケツリレーで物資搬入する中須副委員長》

今日（4月27日）は、東日本大震災が発生してから49日目になります。会津若松支援物資センターでは、地震が発生した時刻の14時46分に、入場者・ボランティアスタッフ全員で黙祷を捧げました。改めて震災の大きさを実感するとともに、亡くなられた方々のご冥福を深くお祈りいたします。

今回は、私たち連合救援ボランティアの会津ベースキャンプ地である「沼尻勤労者保養センターぼなり（以下『ぼなり』）」を私たちの生活とともにご紹介します（施設自体の紹介は『ぼなり』のホームページを参照下さい）。

連合第4陣（全労金第一次）では、12班58名が『ぼなり』を拠点にしています。部屋割りは班単位となっており、全労金の3名で1部屋が割り当てられています。食事は朝食が6時30分から和食（おかずは3品程度）、昼食は『ぼなり』からお弁当を持参します（おかずは2品程度）、夕食は定食のような感じです（※アルコールは無しです）。『ぼなり』は温泉宿であるため、大浴場があります。毎日、汗をかきながら肉体を酷使しての活動となっているので、活動後の入浴は身体も心も癒す時間となっています。



さて、今日は活動3日目になり、そろそろ3人も体のあちこちがギシギシとうなりはじめました。それでも、被災者の方々への思いを持って一生懸命活動を行っています。今日の物資支援センターへの来場は、644世帯でした。3人とも体力の限界まで頑張るぞ〜と、一応、気持ちでは息巻いています。

また、今日は、同じ会津若松支援物資センターにて活動している4班15名（※産別では、電機連合・運輸労連・全電線）にて「中間総括&残りも一致団結して頑張ろう会（懇親会）」を、夕食後に開催しました。そこでは、それぞれの物資支援センターでの任務の苦労やそこで得た情報を共有化するとともに、今後の活動に向けて、さらなる協力体制を確認し合いました。（深見）

《任務の交代をしました》 4月28日

早朝、激しい雨が降り日中の天候が心配されましたが、晴れ間に天気雨が降る程度で、少し肌寒い一日でした。本日の物資支援センターの来場数は、539世帯でした。

昨晚、開催された「中間総括&残りも一致団結して頑張ろう会」の際に、メンバーの作業を少しずつ変更しようということになり、労金メンバーは「受付」（中須）ならびに「入場案内」（桑原）・「荷物仮置き場管理」（桑原・深見）の任に当たりました。

「受付」では、“受付カード”の記入、整理券配布、帰る際の物資受け取りチェック、初めての方へのセンターのルール等の説明が基本任務です。この間、500～750世帯（人数では1,000名超）の来訪があり、入場制限を行いながら受付業務を行っています。来訪者の多くは、原発近くの大熊町や浪江町から避難してきた方々です。

「入場案内」では、入場調整が主な任務で、被災者の方とお話しをすることができました。その中で、大震災後3週間も三食カップラーメンを食べていたご夫婦や、津波による被災者は受け入れてくれるのに原発による被災者は受け入れてくれない自治体に対する不満など様々な声を聞きました。原発のことでは、関東地区の電気供給の一部を福島の皆さんにお願いしていた私（桑原）からすると大変申し訳なく思うばかりでした。

「荷物仮置き場」は、私たちの前に活動した連合のメンバーが作成した段ボールの手作りブースで、多くの荷物を持ってセンター内を回っている方々が荷物を一時預かりをすることで、ゆっくりと見て回ることが出来るようになった工夫の一つです。利用者には、非常に喜ばれていますが、皆さん遠慮されて全ての方にご利用いただけてはいませんので、大きな荷物を持っているお年寄りや子ども連れの方にはこちらから声をかけるようにしています。

一日のスケジュールを改めて紹介すると以下の通りです。

- 6:30 朝食
- 8:00 ぼなり出発（バス）
- 9:00 支援物資センター到着
- 9:15 朝の全体ミーティング・開場準備
- 10:00 センター開場
- 11:45 昼食（45分の2交代制）
- 15:30 センター閉場
- 15:40 終了の全体ミーティング
- 16:00 センター出発
- 17:00 ぼなり到着
- 18:15 班長会議（中須副委員長が参加）
- 19:00 夕食
- 22:30 就寝



《支援物資センターでお世話になった方①》

左が遠藤事務局長、右は中須副委員長

遠藤さんは、社会福祉協議会と一緒に
物資支援センターの運営に関わっている方で、
連合のメンバーの活動をサポートしていただ
いています。（※会津交通労組出身で、全労金・
未留書記次長が若松支店で勤務していた時代に

お世話になった方とのことです。

《共に活動している連合メンバーの紹介》 4月29日



《物資支援センターとなっている体育館》



今日の会津は、曇りの時間もありましたが、概ね良い天気でした。連休初日で、平日とはまた違った方々が何名か来られていました。今日のような休日は、平日に仕事をされている方が多かったようです。また、最近では、被災地域（※大熊町、富岡町）から避難されてきている方もボランティアとして参加されています。本日の物資支援センターの来場数は607世帯、ボランティア数は55名でした。



本日も、昨日に引き続き、任務の入れ替えを行い作業にあたりました。全労金のメンバーは、「受付」（AM：中須、PM：桑原）、「荷物の仮置き管理」（AM：深見、PM：中須）、「入場整理」（AM：桑原）、「物資仕分け」（PM：深見）の任務に従事しました。

今回は、同じ釜の飯を食い、共に活動している連合のメンバーを紹介します。



《全電線の仲間》



《運輸労連の仲間》



《電機連合の仲間》

東北労組・渡部書記長が来訪！夜、福島が地元ということもあって、東北労組・渡部書記長が来られました。東北労組の組合員もこの連休中に、岩手・宮城・福島の被災地にボランティアに入って活動をされたり、被災した職員の住居の片づけ等の手伝いを行っているとのことでした。会津若松における連合救援ボランティアの様子も交えながら、情報交換を行いました。



《中央が東北労組・渡部書記長》

《いわき市勿来(なこそ)活動紹介》 4月30日



《今日（30日）の会津磐梯山（ぼなり近く）》



《センター近くの鶴ヶ城の入り口と桜》

今日の会津は午前中は快晴でしたが、午後から雲行きが怪しくなり、2時過ぎからあいにくの雨になりました。会津はこの時期が桜の季節で、センターの隣に位置する“鶴ヶ城”では花見客で賑わっていました。本日の物資支援センターの来場数は528世帯、ボランティア数は57名でした。

本日も任務の入れ替えを行い作業にあたりました。全労金のメンバーは、「受付」（PM：深見）、「荷物の仮置き管理」（AM：中須、PM：桑原）、「入場整理」（AM：深見・桑原、PM：中須）の任務に従事しました。



《左が運輸労連の市川中央書記次長、右が深見書記次長》

この間、会津若松での全労金が入っているボランティア活動を紹介してきましたが、今回は、福島原発の南に位置する、いわき市勿来（なこそ）にて、ガレキ撤去していた電機連合のボランティア活動を紹介します。毎日開催している班長会議の報告によると、勿来ボランティアセンターの要請に基づき、電機連合のメンバー43名は、田んぼのガレキ撤去に取り組んでこられました。この地帯は、約2mの津波で、家屋の柱や壁、屋根の骨格、サッカーゴール、ブランコまでも流されてきており、その撤去にあたったとのことでした。写真では分かりませんが、重油やペイントの臭いが一帯を漂っていたとの報告でした。



《勿来メンバー（※朝の見送りの際）》



《田んぼの中のガレキ撤去》



《陸上競技場くらいの広さが作業領域》

※上記の写真は、電機連合本部より提供を受けました

《支援物資センターでお世話になった方②》〈写真は、会津若松物資支援センターで一緒に、社協（社会福祉協議会：黄色のジャンパーがスタッフ）とボランティアの方々です。社協はセンターの運営に責任を持って全体の指揮とボランティアのコーディネートを行い、ボランティアの方々は本部・受付・食品・衣料などで担当として従事しています。センターの運営は、両者のコミュニケーションと連携により成り立っています。私たち連合のメンバーもその一員として加わり、関わっています。〉



《ボランティア最終日＆「解団式」》 5月2日

全労金第一次（連合第四陣）のボランティア活動も最終日となりました。4月24日から1週間は長いようで短く、最初の数日は筋肉痛に悩まされた3人ですが、今日も元気に活動しました。

活動終了後には、『ぼなり』を拠点とする会津班・いわき班全員で「解団式」を行い、連合福島・影山会長の他、電機連合福島地協・運輸労連福島県連からもお礼の挨拶を受けました。

本日の会津若松は、朝から雨模様でした。その影響もあってか、物資支援センターの来場数は昨日より少なく439世帯、ボランティア数は53名でした。



《解団式の進行を務める福井氏（連合本部）》



《解団式で挨拶される、影山連合福島議長》



《感想を報告する桑原中央労組委員長》

さて、今回は7日間活動した3名それぞれから1週間活動した報告・感想等をアップします。

《中須副委員長》

労働組合の組織力の特性を最大限生かした取組みが、今回の連合の災害救援ボランティアの取組みであると思います。大震災という大きな社会課題に市民レベルで労働組合が積極的に関わる姿は、今回のボランティアを通して、期待と感謝を持って受け止められていることを感じました。今後、東北地方の復興はもちろん大きな課題ではありますが、その課題含めて、様々な社会的課題（※障害者課題、老人対策、環境問題等）に対する労働組合の関わり、社会連携がこれまで以上に求められる状況にあると思いました

《深見書記次長》

物資支援センターが被災者にとってどのような役割を果たしているのか、自分たちにど

んな活動ができるのか、不安を感じながら初日を迎えましたが、地元ボランティアの方々に教えられ、毎日充実した活動ができました。また、被災者の方、地元の方からいろいろな話を聞くことができ、大震災の影響の大きさを実感しました。これからも東京の地からできることをしていきたいと思います。

《中央労組・桑原委員長》

全労金としての第一次の役割をどこまでできたかわかりませんが、大変充実した7日間の実働日を迎えることができました。初日の総評会館の説明会では、「ボランティアは宿泊・食事の全てを個人が準備することが基本であるが、私たちはその心を持ちつつも継続的に活動するためには、一定のベースキャンプの設営は必要である」とお話をいただきました。活動するときは全力で行動し、抜くときはしっかり抜くことが必要です。それが、継続的に活動するために必要なことであると思います。その意味では、「ばなり」は最高の環境であると思うので、是非、多くの組合員に私たちの後に続いて頂きたいと思います。

以上で、第1班の現地レポートを終了します。

以 上